



# セカンドオピニオン

清水建設株式会社

2023年1月23日

サステナビリティボンド・フレームワーク

ESG 評価本部

担当アナリスト：森安 圭介

格付投資情報センター（R&I）は、2023年1月に策定された清水建設のサステナビリティボンド・フレームワーク（以下、本フレームワーク）が国際資本市場協会（ICMA）の「グリーンボンド原則 2021」（GBP2021）、「ソーシャルボンド原則 2021」（SBP2021）及び「サステナビリティボンド・ガイドライン 2021」、環境省の「グリーンボンドガイドライン 2022 年版」及び金融庁の「ソーシャルボンドガイドライン 2021」に適合していることを確認した。オピニオンは下記の見解に基づいている。

## ■ オピニオン概要

### (1) 調達資金の使途

本フレームワークにて調達する資金は、清水建設の自社施設である潮見イノベーションセンター（仮称）の建物・設備等の新規投資またはリファイナンスに充当される予定。充当対象の施設・設備機器等が本フレームワークで定めたグリーンカテゴリーのみに該当する場合にはグリーンボンド、グリーンカテゴリーかつソーシャルカテゴリーに該当する場合はサステナビリティボンドとして発行される。

清水建設は、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」で示した事業構造、技術、人財のイノベーションを強力に推進することを目的に、江東区潮見に本イノベーションセンターを建設する。本館、研究施設、研修施設、歴史資料展示施設等の建設に加え、同敷地内に旧渋沢邸の移築や公園整備等も実施される。主な認証として、本館は LEED プラチナ、WELL プラチナ、NET ZEB、CASBEE WELL OFFICE、研究施設、研修施設、歴史資料展示施設は Nearly ZEB の取得を予定している。加えて施設全体として、生物多様性に配慮した施設や建物等を認証する制度である ABINC ADVANCE の取得を予定している（江東区との共同取得、計画段階認証済）。

グリーンの観点では、充当予定の施設がグリーンビルディングとして明確な環境改善効果が見込めることから、本プロジェクトは GBP2021 に例示される ICMA 事業カテゴリー「グリーンビルディング」に該当する。ソーシャルの観点では、本プロジェクトは SBP2021 に例示される ICMA 事業カテゴリー「手頃な価格の基本的インフラ設備」、「社会経済的向上とエンパワーメント」に該当する。地震や台風などの自然災害の発生時に周辺住民等に「安全・安心」を提供する拠点機能を担う施設として、具体的には自治体より津波・高潮時の一時避難場所に指定される予定の施設・建物、避難所レベルの耐震性能を備えた施設・建物、先進的な火災検知・消火技術を備えた施設・設備がソーシャル適格プロジェクトのひとつとなっている。また、今後の人手不足対策のための省力化・自動化を推進するロボットの研究開発・実証や高齢者・障がい者等の移動に困難を抱える人々の移動を容易にするためのバリアフリー設備の導入・整備に係る投資等もプロジェクトの候補となっている。以上に加えて、本プロジェクトの建設・運営等において環境・社会への影響に対する配慮がなされており、資金使途は妥当であると判断した。

### (2) プロジェクトの評価と選定のプロセス

清水建設は、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」にて、3つのイノベーション（①事業構造のイノベーション、②技術のイノベーション、③人財のイノベーション）の融合により、新たな価値を創造するスマートイノベーションカンパニーを目指している。今回充当予定の施設・設備を活用することにより、オープンイノベーションや人財の育成、技術の伝承を着実に進め、経営基盤の確立・強化を図るとともに、企業価値の一層の向上に寄与するものと考えられる。本フレームワークに基づいて充当する適格プロジェクトは、財務部と社内関係部署との協議により適格クライテリアに合わせて特定し、対象事業候補とした事業についてグリーンまたはサステナビリティ・プロジェクトとして選定する。グリーンまたはサステナビリティ・プロジェクトの選定の結果については、最終的に財務担当役員が承認する組織的な選定プロセスとなっている。プロジェクトの評価と選定のプロセスは妥当であると判断した。

### (3)調達資金の管理

財務部にて償還までの間、適格プロジェクトの予算と実際の支出を追跡管理する内部管理システムを用いて、グリーンまたはサステナビリティボンドの発行額と同額が適格プロジェクトのいずれかに充当されるよう、四半期毎に追跡、管理する。調達資金の未充当期間が発生する場合は、現金及び現金同等物にて管理する。仮に充当先のプロジェクトが本フレームワークにて定めたグリーンまたはソーシャル適格クライテリアを満たさなくなった場合や売却される場合は、適格クライテリアを満たす別のプロジェクトを選定し充当する。調達資金の管理は妥当な内容であると判断した。

### (4)レポーティング

調達資金が全額充当されるまでの間、適格プロジェクト別に債券単位にて資金充当レポーティングを年次で実施する。あわせて本フレームワークに基づくグリーンまたはサステナビリティボンドの発行残高がある限り、環境・社会改善効果について実務上可能な範囲でレポーティングを行い、発行体のウェブサイトにて開示予定である。グリーン適格プロジェクトとしてはグリーンビルディング認証のレベルに加え、一次エネルギー消費削減量、CO2 排出削減量等の定量的な指標を開示する。ソーシャル適格プロジェクトを充当対象に含む場合は、期待される社会的便益をアウトプット、アウトカム、インパクトの別に開示予定。レポーティングは妥当な内容であると判断した。

## 発行体の概要

1804年に清水喜助が江戸神田鍛冶町に大工業を開業したことを起源とする大手ゼネコン。幕末から明治にかけて洋風建築にも積極的に取り組み、また相談役渋沢栄一翁の指導のもと、いち早く個人経営から組織経営に改革を行い、組織の近代化を図った。戦後復興とともに、総合建設業としての地位を確立した。豊富な実績を背景に優れた施工力を有し、特に民間建築の分野では業界随一の規模を誇る。現在、グループ長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」を推進し、2030年に目指す姿として「スマートイノベーションカンパニー」を掲げている。建設業以外の非建設事業の成長にも注力を行い、不動産開発分野においては、デジタル化をキーワードに建設事業とシナジーを創出できる物件（ミチノテラス豊洲など）を開発している。またエンジニアリング分野においては、洋上風力の工事受注に向けて世界最大級規模の自航式 SEP 船「BLUE WIND」を建造するなど、再生可能エネルギーや新規事業投資にも積極的に取り組む。

## 1. 調達資金の使途

### ● 対象プロジェクト

- 本フレームワークによる調達資金は、以下の適格プロジェクトに全額充当する予定である。

| 対象事業                                               | ICMA 事業カテゴリー <sup>1</sup> |                  |
|----------------------------------------------------|---------------------------|------------------|
|                                                    | グリーン                      | ソーシャル            |
| 潮見イノベーションセンター<br>(仮称)                              | グリーンビルディング                |                  |
| 防災・減災に関する<br>設備投資<br>(災害時における避難<br>場所の提供)          |                           | 手頃な価格の基本的インフラ設備  |
| 省力化・自動化を推進<br>するロボットやバリア<br>フリー設備の研究や<br>実証実験に係る投資 |                           | 社会経済的向上とエンパワーメント |

### ● 対象事業の事業カテゴリーと環境改善効果・社会的成果、ネガティブな影響

#### ① グリーン適格プロジェクト： 潮見イノベーションセンター（仮称）

ICMA 事業カテゴリー：グリーンビルディング

- 事業概要：本フレームワークにて調達する資金のうち、グリーン適格プロジェクトとしては潮見イノベーションセンター（仮称）の建設資金に充当される。オープンイノベーションを促す機能を備えた本館、大型構造実験やロボット開発を行う研究施設、ものづくり体験型の研修施設、歴史資料展示施設などを含む延べ 25,000 m<sup>2</sup>の施設である。この他、敷地内には企業ミュージアムとして歴史資料展示施設、渋沢栄一翁の旧邸宅を青森県から移築し、一般公開を予定している。



[出所:清水建設サステナビリティボンド・フレームワーク]

<sup>1</sup> 国際資本市場協会のグリーンボンド原則及びソーシャルボンド原則に示される事業区分。グリーン適格カテゴリーとして 10 カテゴリー、ソーシャル適格カテゴリーとして 6 カテゴリーが示されている。

## 潮見イノベーションセンター（仮称）について

清水建設は、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」で示した事業構造、技術、人財のイノベーションを強力に推進することを目的に、江東区潮見に取得した敷地において、本館、研究施設、研修施設等、総延床面積約 25,000 ㎡からなるイノベーションセンターを建設しており、2023 年初夏に竣工、2024 年から旧渋沢邸や歴史資料展示施設については一般公開を実施する予定。建設地は、江東区潮見の約 37,000 ㎡の土地で、JR 京葉線「潮見駅」から徒歩 1 分、中央区京橋の本社から約 6 km、江東区の技術研究所・東京木工場から約 3km というロケーションに位置している。本イノベーションセンターにておいて、オープンイノベーションによる生産技術革新や先端技術開発、イノベーションやものづくり人財の育成、技術の伝承を着実に進め、経営基盤の確立・強化を図るとともに、企業価値の一層の向上を目指す。建設にともない、現行の技術研究所の一部の機能を新施設に移転し、技術研究所の施設群を再整備する。また、清水建設の二代目当主である清水喜助が手掛け、青森県六戸町に移築されていた旧渋沢邸を譲り受け当敷地内に再移築し、保存する。旧渋沢邸は、明治期に清水建設の相談役を務めた渋沢栄一翁の邸宅として明治 11（1878）年に完成した木造建築であり、唯一現存する二代清水喜助の建築作品である。清水建設の DNA を後世に伝える文化遺産として保存するとともに、歴史資料展示施設と一体活用していく考え。

### <概要>

|              |                                                                                         |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 所在地          | 江東区潮見 2 丁目 8 番地内                                                                        |
| 敷地面積         | 36,880 ㎡（11,156 坪）                                                                      |
| 設計施工         | 清水建設                                                                                    |
| 施設概要         | 5 棟、総延床面積 25,000 ㎡（予定）                                                                  |
| 主な認証<br>（予定） | 本館：LEED プラチナ、WELL プラチナ、NET ZEB、<br>CASBEE WELL OFFICE、<br>研究施設、研修施設、歴史資料展示施設：Nearly ZEB |

### <本館>

敷地の中心に位置する本館は、社会やお客様の真のニーズに立ち戻って事業構造を原点から考えていく施設である。これまでの組織や社内外、国内外の枠を超えて事業構造・技術・人財を創造するオープンイノベーションのハブとなる。また、社内外に向けた情報発信の拠点として、積極的な活用を図る。

### <研究施設>

研究施設には、技術研究所から大型構造実験や、材料実験といった生産系の研究機能を移転・拡充するとともに、清水建設が注力しているロボット専用の研究スペースを整備する。建設の可能性を「原点から探求する」施設であり、技術イノベーションの中核を担う。

### <研修施設>

研修施設は、現在、江東区木場の東京木工場内にある、ものづくり研修センターの機能を移転するとともに、土木や設備の施工体験機能を加えて、さらに充実させる。ものづくりをその成り立ちから考え、心と技を磨くことができる「ものづくりの原点」であり、「技術と品質のシミズ」を支え続けるための人づくりの場とする。

### <歴史資料展示施設>

歴史資料展示施設は、清水建設に伝わる多くの歴史的史料や模型、映像等により、建設業の近現代の歩みを紹介する企業ミュージアムとして整備する。清水建設が辿ってきた挑戦の歴史を振り返り、「進取の精神の原点」と、その継承の歩みを将来にわたって伝え続ける。

### <旧渋沢邸>

旧渋沢邸は渋沢栄一翁の邸宅のひとつであり、表座敷は二代当主の清水喜助が手掛けた現存する唯一の建築作品である。当初、深川福住町（現在の江東区永代）に建設され、その後、2 度の移築を経て、1991 年



から青森県上北郡六戸町で保存されていたものを清水建設が2018年に取得。2020年1月に江東区から「旧洪沢家住宅（部材）」として文化財指定を受け、現在、イノベーションセンター内の敷地にて再築工事を実施している。完成から140年以上が経過しているものの建築的特徴や細部に用いられた意匠及び工法がよく残っており、移築にあたり往時の姿で忠実に再現される予定。創業の精神である誠実なものづくりと顧客第一、そして社是である「論語と算盤」を反映する清水建設の原点の象徴であり、清水建設のDNAを後世に伝える文化遺産として保存・活用していく。

イノベーションセンターとして新たに建設する施設が担うオープンイノベーションや人材育成の役割と、古くから培われてきた技術の伝承を着実に進めるという役割が合わさって、清水建設の社員だけでなく本イノベーションセンターに集う人たちが歴史から学び刺激を受けることにより新たなイノベーションを創出していくことが期待される。往時の状態を再現しつつ、移築にあたっては耐震化や補修などを行っており、社内の関係部署と連携して、貴重な建築物を適切に保存するための最新テクノロジーと伝統的技術の協業によって今回の移築が実現している。



[出所：清水建設ニュースリリース]

**環境改善効果：**本フレームワークにて調達する資金は、以下の適格クライテリアを満たす建物の建設等費用に充当される。適格クライテリアは広く認知された環境認証を参照しており、いずれにおいても明確な省エネ効果が見込める。

**適格クライテリア：**下記いずれかのグリーンビルディング認証を取得した建物の建設、修繕、取得等にかかる費用（既存プロジェクトへ充当する場合は、グリーンまたはサステナビリティボンドの発行から2年以内に開始、または適格性が確認されたものとする）

- ・ LEED<sup>2</sup>： シルバー、ゴールド、プラチナ
- ・ CASBEE<sup>3</sup>： B+ランク、Aランク、Sランク
- ・ BELS： 3つ星、4つ星、5つ星
- ・ DBJ Green Building 認証： 3つ星、4つ星、5つ星

充当予定である潮見イノベーションセンター（仮称）について、本館はLEEDプラチナ、WELLプラチナ、NET ZEB（Net Zero Energy Building）、CASBEE WELL OFFICE、研究施設・研修施設・歴史資料展示施設はNearly ZEBを取得予定。NET ZEBでは一次エネルギー年間消費量を50%以上削減し、再生可能エネルギーを含めて100%以上削減、Nearly ZEBでは一次エネルギー年間消費量50%以上削減し、再生可能エネルギーを含め75%以上削減となる水準であることから、CO2排出量の削減が十分に期待できる。一般社団法人住宅性能評価・表示協会がZEBの取得状況を開示しており、延床面積2,000m<sup>2</sup>以上と一定規模以上の不動産においてNET ZEB及びNearly ZEBの水準まで省エネルギー性能を高めている事例は相対的に少ないことから、本イノベーションセンターの施設の取り組みは意義深いといえる。

<sup>2</sup> LEED-BD+C（Building Design and Construction）またはLEED-O+M（Building Operations and Maintenance）

<sup>3</sup> CASBEE 建築（新築、既存、改修）、CASBEE 不動産認証

**ネガティブな影響への配慮：**事業の実施に際しては関係機関と十分に協議するとともに、周辺地域への悪影響が生じないよう必要な措置を講じている。近隣関係者に対しては事業計画及び工事内容について理解が得られるよう事前に説明を行うとともに、万一近隣関係者との間で問題が生じた場合は責任をもって速やかに対処している。なお、環境面については、生物多様性に配慮した施設や建物などを評価する ABINC 認証制度のひとつで、複数の街区を超えてエリア全体で実施される取り組みを評価する ABINC ADVANCE の取得を予定している（江東区と共同取得、計画段階認証を 2022 年 7 月に取得済）。

## ＜適格プロジェクトの評価＞

潮見イノベーションセンター（仮称）の主要施設は優れた環境性能から NET ZEB または Nearly ZEB を取得予定であり、グリーンビルディングとして明確な環境改善効果が見込める。プロジェクト推進にあたり、環境面及び社会面で潜在的にネガティブな影響にも配慮がなされている。

### （参考）ABINC 認証制度

「いきもの共生事業所® 認証（ABINC 認証制度）」は、自然と人との共生を企業活動において促進することを目的として、生物多様性に配慮した環境づくりなどに取り組む工場やオフィスビル、商業施設、街区などを評価・認証するもの。いきもの共生事業推進協議会（ABINC）が運営主体であり、生物多様性に貢献する環境づくり、生物多様性に配慮した維持管理、コミュニケーション活動が主な評価項目となっている。2022 年 8 月時点の ABINC 認証件数は 128 件。

## ＜SDGs への貢献＞



SDGs の観点では、特に 9.4「2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取組を行う。」、11.3「2030 年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する」に貢献していると考えられる。

### ② ソーシャル適格プロジェクト：潮見イノベーションセンター（仮称）

ICMA 事業カテゴリー：手頃な価格の基本的インフラ設備（防災・減災対策）／

社会経済的向上とエンパワメント（バリアフリーの推進）

対象となる人々：自然災害の罹災者を含むその他弱者グループ／

障がい者、高齢者、重労働者・危険作業に従事する労働者

- **事業概要：**グリーン適格プロジェクト：潮見イノベーションセンター（仮称）に記載の事業概要と同じ。
- **社会的課題と成果：**江東区大雨浸水ハザードマップによると、下水道及び排水機場の処理能力を超える豪雨が発生した場合、潮見や枝川で一部浸水被害が起こる可能性がある。また、江東区高潮ハザードマップにおいても一部浸水が想定されている。災害発生時に当座の危険を回避するために一時的に避難する場所、または帰宅困難者が一定時間待機する場所として一時避難場所が提供され、潮見イノベーショ

ンセンター（仮称）も指定を受ける。あくまで一時的な避難先であり、長期間の避難機能は有していないものの、周辺の広域避難場所や避難所との連携含め、地域ぐるみの防災機能として重要な役割を果たすといえる。また、今後の人手不足対策のため省力化・自動化を推進するロボットや高齢者・障がい者等の移動に困難を抱える人々の移動を容易にするためのバリアフリー設備の研究や実証実験を本施設で実施する計画であり、そのための投資等もソーシャル適格プロジェクトの候補となっている。

江東区高潮ハザードマップ（点線囲み部分が建設地）



**ネガティブな影響への配慮：**事業の実施に際しては関係機関と十分に協議するとともに、周辺地域への悪影響が生じないように必要な措置を講じている。近隣関係者に対しては事業計画及び工事内容について理解が得られるよう事前に説明を行うとともに、万一近隣関係者との間で問題が生じた場合は責任をもって速やかに対処している。

#### ＜適格プロジェクトの評価＞

本イノベーションセンターは津波・高潮発生時に周辺住民等の一時的な避難場所として、江東区から一時避難場所に指定される予定であり、地域の防災機能のひとつとして有意義である。また、バリアフリー設備の研究や実証実験を本施設で実施する計画。誰もが暮らしやすい建物や街にするための技術を率先して開発してきた清水建設において、本イノベーションセンターは重要な役割を担っている。以上より、本プロジェクトはSBP2021に例示されるICMA事業カテゴリー「手頃な価格の基本的インフラ設備(防災・減災対策)」、「社会経済的向上とエンパワーメント（バリアフリー推進）」に該当する。

#### ＜SDGs への貢献＞



SDGs への貢献という観点では、特に9.1「全ての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する。」、11.2「2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子供、障がい者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。」、11.b「2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靱さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組み2015 - 2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。」に貢献していると考えられる。



**総括：**本フレームワークにて調達する資金は、清水建設の自社施設である潮見イノベーションセンター（仮称）の建物・設備等の新規投資またはリファイナンスに充当される予定。充当対象の施設・設備機器等が本フレームワークで定めたグリーンカテゴリーのみに該当する場合にはグリーンボンド、グリーンカテゴリーかつソーシャルカテゴリーに該当する場合はサステナビリティボンドとして発行される。

清水建設は、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」で示した事業構造、技術、人財のイノベーションを強力に推進することを目的に、江東区潮見に本イノベーションセンターを建設する。本館、研究施設、研修施設、歴史資料展示施設等の建設に加え、同敷地内に旧渋沢邸の移築や公園整備等も実施される。主な認証として、本館は LEED プラチナ、WELL プラチナ、NET ZEB、CASBEE WELL OFFICE、研究施設、研修施設、歴史資料展示施設は Nearly ZEB を取得予定。加えて施設全体として、生物多様性に配慮した施設や建物等を認証する制度である ABINC ADVANCE の取得を予定している（江東区と共同取得、計画段階認証済）。

グリーンの観点では、充当予定の施設がグリーンビルディングとして明確な環境改善効果が見込めることから、本プロジェクトは GBP2021 に例示される ICMA 事業カテゴリー「グリーンビルディング」に該当する。ソーシャルの観点では、本プロジェクトは SBP2021 に例示される ICMA 事業カテゴリー「手頃な価格の基本的インフラ設備」、「社会経済的向上とエンパワーメント」に該当する。地震や台風などの自然災害の発生時に周辺住民等に「安全・安心」を提供する拠点機能を担う施設として、具体的には自治体より津波・高潮時の一時避難場所に指定される施設・建物、避難所レベルの耐震性能を備えた施設・建物、先進的な火災検知・消火技術を備えた施設・設備がソーシャル適格プロジェクトのひとつとなっている。また、今後の人手不足対策のための省力化・自動化を推進するロボットの研究開発・実証や高齢者・障がい者等の移動に困難を抱える人々の移動を容易にするためのバリアフリー設備の導入・整備に係る投資等もプロジェクトの候補となっている。以上に加えて、本プロジェクトの建設・運営等において環境・社会への影響に対する配慮がなされており、資金使途は妥当であると判断した。

## 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

### (1) 包括的な目標、戦略等への組み込み

- 清水建設は社是である「論語と算盤」を基本とした経営を実践している。経営理念には「真摯な姿勢と絶えざる革新志向により社会の期待を超える価値を創造し持続可能な未来づくりに貢献する」を掲げる。清水建設によれば、「当社は、創業者初代清水喜助が生涯大切にしていた「誠実なものづくり」に対する高い志と、時代を先取りしチャレンジし続ける「進取の精神」を守り受け継ぎながら、218 年以上にわたりお客様の期待を超える価値を創造してきました。」（シミズコーポレートレポート 2022 より）とされる。
- 2019 年 5 月、清水建設はシミズグループ長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」を公表、2030 年に目指す姿を「スマートイノベーションカンパニー」として描いた。「シミズグループは、建設事業の枠を超えた不断の自己変革と挑戦、多様なパートナーとの共創を通じて、時代を先取りする価値を創造（スマートイノベーション）し、人々が豊かさと幸福を実感できる、持続可能な未来社会の実現に貢献します。」としている。



・・・ シミズグループが提供する価値 ・・・

[出所：清水建設ウェブサイト]

- 一方で足許では、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、世界は脱炭素化やデジタル化をめぐる議論や取り組みを加速させ、ニューノーマルな働き方を生み、時代の転換期に入っている。また、今回のウクライナ危機はグローバルな政治経済に不安と動揺をもたらしている。こうした転換期における不透明さの中、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」で掲げたレジリエント、インクルーシブ、サステナブルの3つの社会の実現を目指し、新しい価値をお客さまと社会にお届けするという使命は、ますますその重要性が増し、意義深いものになると清水建設グループとして捉えている。
- 清水建設は 2021 年度、環境経営の司令塔として環境経営推進室を新設し、グループ環境ビジョン「SHIMZ Beyond Zero 2050」を策定した。ビジョンでは、目指すべき持続可能な社会像を「脱炭素」「資源循環」「自然共生」の3つの価値で表現し、グループの事業活動による環境への負の影響を低減するとともに、お客さまや社会にプラスとなる環境価値をお届けする「攻めの環境経営」を掲げ、技術開発に取り組んでいる。
- 「脱炭素」については、2050 年に自社の事業活動における CO<sub>2</sub> 排出をゼロにするだけでなく、設計施工建物の運用時の CO<sub>2</sub> 排出ゼロなど、サプライチェーンを通して脱炭素社会に貢献するとともに、技術革新や再エネ電力の創出などにより、脱炭素社会を牽引していく考えを示している。

## SHIMZ Beyond Zero 2050

シミズグループが目指す持続可能な社会



[出所：清水建設ウェブサイト]

- 環境に対するガバナンスとしては、環境問題に関する方針及び施策を審議する「SDGs・ESG 推進委員会」を設置している。当委員会は社長を委員長に、SDGs・ESG 担当役員、安全環境担当役員及び各事業担当役員などで構成され、気候関連リスクと機会の特定と評価の結果を審議するとともに、「エコロジー・ミッション 2030-2050」の達成度も管理している。また、これらの審議の結果は取締役会に報告され、監督する体制となっている。さらに、先述の環境経営推進室が、環境ビジョン「SHIMZ Beyond Zero 2050」の達成に向けた活動の管理を行う。

## 環境に対するガバナンス体制



[出所：清水建設ウェブサイト]

- 清水建設は、社会や環境の持続可能性（サステナビリティ）を強く意識した事業活動を推進している。持続可能な未来社会の実現に向けた重要課題として、以前より ESG 課題と ESG 重要管理指標を設定し、戦略的に事業活動を推進してきたが、2022 年 5 月、最新の社会動向を踏まえて、取り組むべきマテリアリティ（重要課題）を改めて特定した。これにより、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」、中期経営計画（2019～2023 年）の達成、並びに企業価値向上と SDGs 達成への貢献を目指していく。

|                           | カテゴリ                                                                                                             | マテリアリティ                                                                                                                               | 関連するSDGs                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業を通じて社会に貢献できる<br>マテリアリティ |  1. 安全・安心で<br>レジリエントな社会の実現      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・強靱な社会基盤の構築</li> <li>・建物とインフラの長寿命化</li> </ul>                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                           |  2. 健康・快適に暮らせる<br>インクルーシブな社会の実現 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適なまちづくり</li> <li>・Well-being 対応</li> </ul>                                                   |                                                                                                                                                                                         |
|                           |  3. 地球環境に配慮した<br>サステナブルな社会の実現   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・脱炭素</li> <li>・資源循環</li> <li>・自然共生（生物多様性の保全）</li> <li>・環境汚染防止</li> </ul>                       |                   |
| 事業・経営基盤のための<br>マテリアリティ    |  4. 誠実なもののづくりの推進               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産性の向上</li> <li>・最適品質の確保</li> <li>・サプライチェーンの強化</li> <li>・労働安全衛生の徹底</li> </ul>                 |                |
|                           |  5. 時代を先取りする<br>新しい技術と価値の創造   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・先端技術開発</li> <li>・新たなビジネスモデルの創出</li> </ul>                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                           |  6. 次世代を担う人財の育成と<br>働きがいの追求   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・働きがいのある職場環境づくり</li> <li>・ダイバーシティ&amp;インクルージョン</li> <li>・次世代を担う人財育成</li> <li>・人権の尊重</li> </ul> |       |
|                           |  7. 「論語と算盤」を基本に据えた<br>経営基盤の構築 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメント</li> <li>・コンプライアンスの徹底</li> <li>・情報セキュリティの強化</li> </ul>                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

[出所：清水建設ウェブサイト]

- 長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」にて、3つのイノベーションの融合により、新たな価値を創造するスマートイノベーションカンパニーを目指している。3つのイノベーションとは、①事業構造のイノベーション、②技術のイノベーション、③人財のイノベーションであり、建設事業の枠を超えた自己変革と挑戦、多様なパートナーとの共創を通じ、時代を先取りする価値を創造し、持続可能な未来社会の実現に貢献できる企業を「スマートイノベーションカンパニー」と定義している。





[出所：清水建設ウェブサイト]

- 清水建設はグリーンボンド（2019 年 12 月）及びサステナビリティボンド（2021 年 12 月）を発行し、SHIMZ VISION 2030 に掲げる「安全・安心でレジリエントな社会の実現」、「健康・快適に暮らせるインクルーシブな社会の実現」、「地球環境に配慮したサステナブルな社会の実現」に向けた取組を推進している。本フレームワークに基づく調達資金についても、潮見イノベーションセンター（仮称）の建設・稼働を通じて、オープンイノベーションや人財の育成、技術の伝承を着実に進め、長期ビジョン実現に寄与していく。

## (2) プロジェクトの評価・選定の判断規準

- 本フレームワークにて調達する資金は、潮見イノベーションセンター（仮称）の建物・設備等の新規投資またはリファイナンスに充当される予定。充当対象の施設・設備機器等が本フレームワークで定めたグリーンカテゴリーのみに該当する場合にはグリーンボンド、グリーンカテゴリーかつソーシャルカテゴリーに該当する場合はサステナビリティボンドとして発行される。
- グリーン適格クライテリアでは国内で広く活用されているグリーンビルディング認証を判断基準として参照しており、妥当な水準の環境改善効果を担保している。ソーシャル適格クライテリアではソーシャルボンドガイドラインを参照して日本で期待される社会的成果や対象となる人々を特定している。環境・社会面のリスク低減措置として以下の事項への対応を確認している。

環境・社会面のリスク低減措置：

- ・ 対象街区所在の国・地方自治体にて求められる環境関連法令等の遵守と、必要に応じた環境への影響調査の実施
- ・ 事業実施にあたり地域住民への十分な説明の実施
- ・ 調達ガイドラインに沿った資材調達、環境負荷物質への対応、廃棄物管理の実施

## (3) プロジェクトの評価・選定の判断を行う際のプロセス

- 本フレームワークに基づいて充当する適格プロジェクトは、財務部と社内関係部署との協議により適格クライテリアに合わせて特定し、対象事業候補とした事業についてグリーンまたはサステナビリティ・プロジェクトとして選定する。グリーンまたはサステナビリティ・プロジェクトの選定の結果については、最終的に財務担当役員が承認する。

総括：清水建設は、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」にて、3つのイノベーション（①事業構造のイノベーション、②技術のイノベーション、③人財のイノベーション）の融合により、新たな価値を創造するスマートイノベーションカンパニーを目指している。今回充当予定の施設・設備を活用することにより、オープンイノベーションや人財の育成、技術の伝承を着実に進め、経営基盤の確立・強化を図るとともに、企業価値の一層の向上に寄与するものと考えられる。本フレームワークに基づいて充当する適格プロジェクトは、財務部と社内関係部署との協議により適格クライテリアに合わせて特定し、対象事業候補とした事業についてグリーンまたはサステナビリティ・プロジェクトとして選定する。グリーンまたはサステナビリティ・プロジェクトの選定の結果については、最終的に財務担当役員が承認する組織的な選定プロセスとなっている。プロジェクトの評価と選定のプロセスは妥当であると判断した。

### 3. 調達資金の管理

- 財務部にて償還までの間、適格プロジェクトの予算と実際の支出を追跡管理する内部管理システムにて、グリーンまたはサステナビリティボンドの発行額と同額が適格プロジェクトのいずれかに充当されるよう、四半期毎に追跡、管理する。
- 調達資金の未充当期間が発生する場合は、現金及び現金同等物にて管理する。
- 仮に充当先のプロジェクトが本フレームワークにて定めたグリーンまたはソーシャル適格クライテリアを満たさなくなった場合や売却される場合は、適格クライテリアを満たす別のプロジェクトを選定し充当する。
- 証憑となる文書は文書管理規定等のもと適切に保管される。

総括：財務部にて償還までの間、適格プロジェクトの予算と実際の支出を追跡管理する内部管理システムにて、グリーンまたはサステナビリティボンドの発行額と同額が適格プロジェクトのいずれかに充当されるよう、四半期毎に追跡、管理する。調達資金の未充当期間が発生する場合は、現金及び現金同等物にて管理する。仮に充当先のプロジェクトが本フレームワークにて定めたグリーンまたはソーシャル適格クライテリアを満たさなくなった場合や売却される場合は、適格クライテリアを満たす別のプロジェクトを選定し充当する。調達資金の管理は妥当な内容であると判断した。

## 4. レポーティング

### (1) 開示の概要

- レポーティングの概要は以下の通り。

|                | 開示事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 開示タイミング                        | 開示方法       |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|------------|
| 資金充<br>当状<br>況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適格プロジェクトへの充当額と未充当額</li> <li>・ 未充当額がある場合は、充当予定時期及び未充当期間の運用方法</li> <li>・ 新規ファイナンスとリファイナンスの割合</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 調達資金が全額適格プロジェクトに充当されるまでの間、年に1度 | 発行体のウェブサイト |
| 環境改善効果・社会的成果   | <p>【環境改善効果】<br/>＜グリーンビルディング＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建物概要と取得したグリーンビルディング認証のレベル</li> <li>・ 電力消費削減量</li> <li>・ ガス消費削減量</li> <li>・ 一次エネルギー消費削減量</li> <li>・ CO2 排出削減量</li> </ul> <p>【社会的成果】<br/>＜手頃な価格の基本的インフラ設備＞</p> <p>アウトプット：防災・減災に関する導入・投資設備の概要</p> <p>アウトカム：津波・高潮時の収容可能人数<br/>想定される耐震性能</p> <p>インパクト：災害に強い社会の実現</p> <p>＜社会経済的向上とエンパワメント＞</p> <p>アウトプット：バリアフリー設備の概要</p> <p>アウトカム：対象となる利用者の利用状況</p> <p>インパクト：誰にでも利用できる施設・設備の提供</p> | ボンドの償還までの間、年に1度                | 発行体のウェブサイト |

- 調達資金が全額充当されるまでの間、適格プロジェクト別に債券単位にて資金充当レポーティングを年次で実施する。あわせて本フレームワークに基づくグリーンまたはサステナビリティボンドの発行残高がある限り、環境・社会改善効果について実務上可能な範囲でレポーティングを行い、発行体のウェブサイトにて開示予定である。
- 調達資金の充当計画に大きな変更が生じた場合や、調達資金の金額が充当された後に大きな資金状況の変化が生じた場合は、発行体は適時に開示する。

### (2) 環境改善効果・社会的成果に係る指標、算定方法等

- グリーンまたはソーシャル適格プロジェクトに係る上記指標（環境改善効果・社会的成果）を、インパクトレポーティングとして年1回公表する予定である。

総括：調達資金が全額充当されるまでの間、適格プロジェクト別に債券単位にて資金充当レポーティングを年次で実施する。あわせて本フレームワークに基づくグリーンまたはサステナビリティボンドの発行残高がある限り、環境・社会改善効果について実務上可能な範囲でレポーティングを行い、発行体のウェブサイトにて開示予定である。グリーン適格プロジェクトとしてはグリーンビルディング認証のレベルに加え、一次エネルギー消費削減量、CO2 排出削減量等の定量的な指標を開示する。ソーシャル適格プロジェクトを充当対象に含む場合は、期待される社会的便益をアウトプット、アウトカム、インパクトの別に開示予定。レポーティングは妥当な内容であると判断した。

以 上

#### 【留意事項】

セカンドオピニオンは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

セカンドオピニオンは、企業等が環境保全および社会貢献等を目的とする資金調達のために策定するフレームワークについての公的機関または民間団体等が策定する当該資金調達に関連する原則等との評価時点における適合性に対する R&I の意見です。R&I はセカンドオピニオンによって、適合性以外の事柄（債券発行がフレームワークに従っていること、資金調達の目的となるプロジェクトの実施状況等を含みます）について、何ら意見を表明するものではありません。また、セカンドオピニオンは資金調達の目的となるプロジェクトを実施することによる成果等を証明するものではなく、成果等について責任を負うものではありません。セカンドオピニオンは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。セカンドオピニオンは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&I はセカンドオピニオンを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&I がセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報は、R&I がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、R&I は、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&I は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&I は、R&I がセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報、セカンドオピニオンの意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やセカンドオピニオンの使用に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何や R&I の帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。セカンドオピニオンに関する一切の権利・利益（特許権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&I に帰属します。R&I の事前の書面による許諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。

セカンドオピニオンは、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。

#### 【専門性・第三者性】

R&I は 2016 年に R&I グリーンボンドアセスメント業務を開始して以来、多数の評価実績から得られた知見を蓄積しています。2017 年から ICMA（国際資本市場協会）に事務局を置くグリーンボンド原則／ソーシャルボンド原則にオブザーバーとして加入しています。2018 年から環境省のグリーンボンド等の発行促進体制整備支援事業の発行支援者（外部レビュー部門）に登録しています。

R&I の評価方法、評価実績等については R&I のウェブサイト（<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>）に記載しています。

R&I と資金調達者との間に利益相反が生じると考えられる資本関係及び人的関係はありません。



## サステナビリティボンド／サステナビリティボンド・プログラム 独立した外部レビューフォーム

### セクション 1. 基本情報

発行体名：清水建設株式会社

サステナビリティボンドの ISIN 又は 発行体のサステナビリティボンド発行に関するフレームワーク名（該当する場合）：清水建設サステナビリティボンド・フレームワーク

独立した外部レビュー実施者名：格付投資情報センター

本フォーム記入完了日：2023 年 1 月 23 日

レビュー発表日：2023 年 1 月 23 日

### セクション 2. レビュー概要

#### レビュー範囲

必要に応じて、レビューの範囲を要約するために以下の項目を利用又は採用する。

本レビューでは、以下の要素を評価し、グリーンボンド原則（以下、GBP）・ソーシャルボンド原則（以下、SBP）との整合性を確認した：

- |                                             |                                                       |
|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング           |

#### 独立した外部レビュー実施者の役割

- |                                               |                                             |
|-----------------------------------------------|---------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証                 |
| <input type="checkbox"/> 検証                   | <input type="checkbox"/> スコアリング/レーティング（格付け） |
| <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）：        |                                             |

注記：複数のレビューを実施又は異なる複数のレビュー実施者が存在する場合、それぞれ別々の用紙にご記入ください。

## レビューのエグゼクティブサマリおよび／またはレビュー全文へのリンク (該当する場合)

### <セカンドオピニオン>

フレームワークが国際資本市場協会（ICMA）の「グリーンボンド原則 2021」（GBP2021）、  
「ソーシャルボンド原則 2021」（SBP2021）及び「サステナビリティボンド・ガイドライン  
2021」、環境省の「グリーンボンドガイドライン 2022 年版」及び金融庁の「ソーシャルボンドガ  
イドライン 2021」に適合していることを確認した。

なお、充当対象の施設・設備機器等が本フレームワークで定めたグリーンカテゴリーのみに該当す  
る場合にはグリーンボンド、グリーンカテゴリーかつソーシャルカテゴリーに該当する場合はサステナ  
ビリティボンドとして発行される。

詳細はリポート本文を参照。

## セクション 3. レビュー詳細

レビュー実施者には可能な限り以下の情報を提供し、レビュー範囲を説明するためにコメントセクションを  
利用するよう推奨する。

### 1. 調達資金の使途

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

セカンドオピニオン「1. 調達資金の使途」の本文を参照。

### GBP による調達資金の使途カテゴリ：

- |                                                                                            |                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギー                                                         | <input type="checkbox"/> エネルギー効率                        |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止および管理                                                         | <input type="checkbox"/> 生物自然資源および土地利用に係る環境持続型管理        |
| <input type="checkbox"/> 陸上および水生生物の多様性の保全                                                  | <input type="checkbox"/> クリーン輸送                         |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理                                                   | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応                       |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス                                 | <input checked="" type="checkbox"/> グリーンビルディング（環境配慮型ビル） |
| <input type="checkbox"/> 発行時には知られていなかったが現在 GBP カテゴリへの適合が予想されている、又は、GBP でまだ規定されていないその他の適格分野 | <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）：                  |

GBP の事業区分に当てはまらない場合で、環境に関する分類がある場合は、ご記入ください：

### SBP による調達資金の使途カテゴリ：

- |                                                                                            |                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 手ごろな価格の基本的インフラ設備                                       | <input type="checkbox"/> 必要不可欠なサービスへのアクセス                       |
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の住宅                                                         | <input type="checkbox"/> 中小企業向け資金供給及びマイクロファイナンスによる潜在的効果を通じた雇用創出 |
| <input type="checkbox"/> 食糧の安全保障                                                           | <input checked="" type="checkbox"/> 社会経済的向上とエンパワーメント            |
| <input type="checkbox"/> 発行時には知られていなかったが現在 SBP カテゴリへの適合が予想されている、又は、SBP でまだ規定されていないその他の適格分野 | <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）：                          |

SBP の事業区分に当てはまらない場合で、社会に関する分類がある場合は、ご記入ください:

### 対象とする人々：

- |                                                                    |                                                             |
|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 貧困ライン以下で暮らしている人々                          | <input type="checkbox"/> 排除され、あるいは社会から取り残されている人々、あるいはコミュニティ |
| <input checked="" type="checkbox"/> 障がいのある人々                       | <input type="checkbox"/> 移民や難民                              |
| <input type="checkbox"/> 十分な教育を受けていない人々                            | <input type="checkbox"/> 十分な行政サービスを受けられない人々                 |
| <input type="checkbox"/> 失業者                                       | <input type="checkbox"/> 女性および／または性的少数派の人々                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者および脆弱な立場にある若者               | <input checked="" type="checkbox"/> 自然災害の罹災者を含む弱者グループ       |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他（ご記入ください）：重労働者・危険作業に従事する労働者 |                                                             |

## 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

セカンドオピニオン「2. プロジェクトの評価と選定のプロセス」の本文を参照。

### 評価と選定

- |                                                                              |                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 十分な発行体の環境・社会面での目標がある                     | <input checked="" type="checkbox"/> 文書化されたプロセスにより、定義された事業区分にプロジェクトが適合すると判断される      |
| <input checked="" type="checkbox"/> サステナビリティボンドの適格プロジェクトを定義した透明性の高いクライテリアがある | <input checked="" type="checkbox"/> 文書化されたプロセスにより、プロジェクトに関連する潜在的な ESG リスクは特定・管理される |
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定のためのクライテリアの概要が、公表される         | <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）：                                             |

## 責任およびアカウンタビリティに関する情報

- ☐ 外部機関の助言または検証を受けた評価／選定基準である
- ☒ 組織内で定められた評価基準である
- ☐ その他（ご記入ください）：

### 3. 調達資金の管理

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

セカンドオピニオン「3. 調達資金の管理」の本文を参照。

#### 調達資金の追跡管理：

- ☒ サステナビリティボンドの調達資金は、発行体により適切な方法で分別又は追跡管理される
- ☒ 未充当資金について、想定される一時的な運用方法の種類が開示される
- ☐ その他（明記ください）：

#### 追加的な開示：

- ☐ 将来の投資にのみ充当
- ☒ 既存および将来の投資に充当
- ☒ 個別単位の支出に充当
- ☐ ポートフォリオ単位の支出に充当
- ☐ 未充当資金のポートフォリオを開示する
- ☐ その他（ご記入ください）：



#### 4. レポーティング

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

セカンドオピニオン「4. レポーティング」の本文を参照。

調達資金の使途に関するレポーティング：

- |                                              |                                          |
|----------------------------------------------|------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 個別債券単位              | <input type="checkbox"/> その他（明記ください）：    |

レポーティングされる情報：

- |                                                  |                                                       |
|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 充当した資金の額     | <input type="checkbox"/> 投資総額に占めるサステナビリティボンドによる調達額の割合 |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他（明記ください）： |                                                       |
| ・未充当額                                            |                                                       |
| ・未充当額がある場合は、充当予定時期及び未充当期間の運用方法                   |                                                       |
| ・新規ファイナンスとリファイナンスの割合                             |                                                       |

頻度：

- |                                        |                                |
|----------------------------------------|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年次 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他（明記ください）：  |                                |

環境・社会改善効果に関するレポーティング：

- |                                              |                                          |
|----------------------------------------------|------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 個別債券単位              | <input type="checkbox"/> その他（明記ください）：    |

頻度：

- |                                        |                                |
|----------------------------------------|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年次 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他（明記ください）：  |                                |

レポーティングされる情報（計画又は実績）：

- |                                        |                                                         |
|----------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 温室効果ガス排出量／削減量 | <input type="checkbox"/> エネルギー削減量                       |
| <input type="checkbox"/> 水使用量の減少       | <input type="checkbox"/> 受益者の数：                         |
| <input type="checkbox"/> 対象とする人々       | <input checked="" type="checkbox"/> その他 ESG 指標（明記ください）： |
| 【環境改善効果】                               |                                                         |

<グリーンビルディング>

- ・建物概要と取得したグリーンビルディング認証のレベル
- ・電力消費削減量
- ・ガス消費削減量
- ・一次エネルギー消費削減量
- ・CO2 排出削減量

【社会的成果】

<手頃な価格の基本的インフラ設備>

アウトプット：防災・減災に関する導入・投資設備の概要

アウトカム：津波・高潮時の収容可能人数  
想定される耐震性能

インパクト：災害に強い社会の実現

<社会経済的向上とエンパワーメント>

アウトプット：バリアフリー設備の概要

アウトカム：対象となる利用者の利用状況

インパクト：誰にでも利用できる施設・設備の提供

## 開示方法

- |                                                                                    |                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 財務報告書に掲載                                                  | <input type="checkbox"/> サステナビリティ報告書に掲載                    |
| <input type="checkbox"/> 臨時に発行される文書に掲載                                             | <input checked="" type="checkbox"/> その他（明記ください）：発行体のウェブサイト |
| <input type="checkbox"/> レポーティングは外部レビュー済（該当する場合は、レポートのどの部分が外部レビューの対象であるか明記してください）： |                                                            |

該当する場合は、「有益なリンク」のセクションに、報告書の名称、発行日を明記してください。

### 有益なリンク（例えば、レビュー実施者の評価方法や実績、発行体の文書等。）

セカンドオピニオン 評価の考え方

<https://www.r-i.co.jp/rating/products/esg/index.html>

該当する場合は、利用可能なその他外部レビューをご記入ください  
実施されるレビューの種類：

- |                                    |                                             |
|------------------------------------|---------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証                 |
| <input type="checkbox"/> 検証        | <input type="checkbox"/> スコアリング/レーティング（格付け） |

☐ その他（ご記入ください）：

レビュー実施者：

発表日：

## GBP で定義された独立した外部レビュー機関の役割について

- (i) セカンドオピニオン：発行体の支配下でない環境・社会面の専門性を有する機関がセカンドオピニオンを提供する。オピニオンの提供者は発行体のサステナビリティボンド・フレームワーク構築のためのアドバイザーから独立しているべきである。そうでなければ情報隔壁を設けるなど、セカンドオピニオンの独立性を確保するための措置をとることになる。オピニオンは通常はGBP・SBPへの適合性評価を基本とする。特に持続可能性に関する包括的な目標、戦略、方針、プロセスの評価と、調達資金を充当するプロジェクトの種類に応じた環境・社会面の特徴に対する評価を含むことができる。
- (ii) 検証：発行体は、事業プロセスやサステナビリティ基準などに関連づけて設定する基準に対して独立した検証を受けることができる。検証は、内部基準や外部基準あるいは発行体が作成した要求との適合性に焦点を当てるものになる。また原資産の環境・社会面での持続可能性に係る特徴についての評価を検証と称し、外部クライテリアを参照することがある。さらにサステナビリティボンドで調達される資金の内部追跡管理方法とその資金の充当状況、環境面での影響、GBP・SBPのレポートニングとの適合性に関する保証や証明も検証と呼ぶことがある。
- (iii) 認証：発行体は、サステナビリティボンドやそれに関連するサステナビリティボンド・フレームワーク、または調達資金の用途について、一般に認知されているサステナビリティ基準やサステナビリティラベルへの適合性に係る認証を受けることができる。サステナビリティ基準やサステナビリティラベルは具体的なクライテリアを定義したもので、通常は認証クライテリアとの適合性を、検証などの手法を用いて、資格認定された第三者機関が確認する。
- (iv) スコアリング/レーティング（格付け）：発行体は、サステナビリティボンド、それに関連するサステナビリティボンド・フレームワーク、調達資金の用途などの特徴について、専門的な調査機関や格付機関の資格を有する第三者機関から、それぞれの機関が確立した評価手法に基づく査定や評価を受けることができる。評価結果には、環境・社会面のパフォーマンスデータ、GBP・SBPに関連するプロセス、2°C目標のようなベンチマークなどに焦点を当てたものが含まれることがある。このようなスコアリングや格付は、信用格付（たとえその中に重要なサステナビリティ面のリスクが反映されているとしても）とはまったく異なったものである。